

誰もが、誰かの
きっかけに。

SOU 創発 HATSU

スポーツで
地域の課題解決を目指す /



人気ゼミを
のぞいてみた。

市民マラソンの 参加者を増やすには?

人間科学部 田島 良輝 教授

p.04>>

SOUHATSU 的 教授紹介

良い環境って なんだろう?

国際共創学部
熊澤 輝一 教授



p.06>>



経済学部 桑原 武志 教授
経営学部 眞島 宏明 教授
情報社会学部 弦間 一雄 教授
人間科学部 若吉 浩二 教授
国際共創学部 大和 里美 教授

#KEYWORDTALK

5つの視点から大阪をひも解くと…

p.08>>

p.10 大樟会だより

SOUHATSU
p.12 news & topics



SOUHATSU “創発”トークセッション
TALK SESSION

国際共創学部 新設記念

Special

対談

学長
山本 俊一郎氏

国際共創学部 学部長
沖浦 文彦 教授

p.02>>

国際共創学部 新設記念

Special 対談

2024年4月に125名の新入生を迎え、ついに国際共創学部が始動しました。新学部の誕生を記念して、山本学長と国際共創学部 沖浦学部長の特別対談が実現。新学部に込めた想いや、今後の展望を伺いました。

— 2024年4月に新設された 国際共創学部は、どのような経緯や 理念を持つ学部なのでしょうか

山本 ■ 2019年から、新学部設置について議論を重ねるなかで、私自身、大阪経済大学のウィークポイントとして「国際的なイメージがない」という点に危機感を抱いていました。高校教員からのイメージも同様でした。現代社会において、グローバルな視点は必須です。多様な文化、価値観のなかで自分の考えをしっかりと形成しながら、人々と共生、共創していく力がこれからの社会では必要不可欠になります。そ



山本 俊一郎
学長
埼玉大学大学院教育学研究科教科教育専攻修了後、東北大学大学院理学研究科で博士号を取得。2005年に本学経済学部講師として着任。2019年4月より本学学長に就任。専門分野は経済地理学。

こで新たな学部を設置するなら国際系がふさわしいと考え、整備を進めてきました。

沖浦 ■ 学部の理念において、共感したのは「グローバル」という言葉の捉え方です。「グローバル」な観点は、海外におけるあるいは海外との活動だけでなく、国内での一見ローカルに見える課題に取り組むにあたっても、必要なものです。そして国内であれ海外であれ、課題が複雑かつそれに関わる人々の価値観が多様ななか、その解決には多くのステークホルダーの「共創」が必要であることも、間違いありません。国際共創学部が、そのような複雑な課題解決に貢献できる人材を輩出できるか、問われていると思います。

山本 ■ 最初の学生となる今年の入学生たちは、他の学部よりも「行動力」があるというアンケート結果が出ていますね。今までとはまた違うタイプの学生が集まってきてくれたという印象です。

沖浦 ■ そうですね。バイタリティのある学生が多いと感じました。ただし元気があるだけでは、社会で通用しません。必要な知識と思考力、実践力を身につけ、社会課題に論理的かつ積極的に取り組めるよう、様々な経験を積んでほしいと考えています。

— 国際共創学部では、大学1年次に 短期留学が必須となっていますが、 どのような内容なのでしょうか

沖浦 ■ 英語研修と多文化理解のプログラムを用意しています。現地でホームステイしながら、平日はハワイ大学マノア校へ通い、語学の授業やハワイ大学学生との交流プログラムが、週末にはハワイ文化に関するアクティビティがあります。

山本 ■ 先進的教育で注目されているミネソタ大学は、4年間で世界7都市を巡ります。一足飛びにそんなことはできません

国際共創学部が考える

GLOBAL & LOCAL

が、本学も世界の国際教育の潮流にはアンテナを張っていきたくと考えています。

— 国際共創学部の学生に伝えたいことや 期待することをお聞かせください

沖浦 ■ 最近の学生は、地元からあまり出ず、SNSばかりを見ているというタイプも多いのではないのでしょうか。自分たちの小さな世界が大切なのはわかりますが、その世界は、実はもっと大きな海の上に浮いているんだ、その海の一部なんだと気づいてほしいですね。海の潮位が動いたら、自分たちの小さな世界も簡単に動くんだという感覚を持ってほしいです。そして、その海と関わることで大きな可能性が広がることを伝えたいですね。

山本 ■ それこそが、グローバルな視点ですね。4年後、初めて国際共創学部から卒業生が出る時に、学生たち自身の希望を叶えつつ、他学部にはなかった就職先や



沖浦 文彦
国際共創学部
学部長・教授
大阪大学大学院環境工学専攻修了後、(株)住信基礎研究所を経て、国際協力事業団(現・国際協力機構、JICA)に移り、政府開発援助(ODA)実務に約25年携わる。その間千葉工業大学大学院にて博士号取得。2019年4月より東京都市大学教授。2024年4月から現職。

独自の進路が見えているといいなと期待しています。新学部の入学生たちをみていると、今年の春は「新しい風が吹き込んだ」という実感があります。この新しい風を、いい風にしていきたいですね。

海外で活躍 // グローバルではない。
国内外どこであっても国際的な観点を
持つことが重要です。(沖浦)



今までとは少し違ったタイプの
新入生たちに期待しています。(山本)





人間科学部・田島ゼミのテーマはスポーツマネジメント。本学が包括連携協定を結ぶ交野市をフィールドに、スポーツ環境の充実や、スポーツによる地域の課題解決を目指しています。今回のゼミでは、交野市で毎年4月に開催されている「交野マラソン」の参加者数アップに向けたアイデアを各ペアが発表しました。単なる思いつきにならないよう、マーケティング手法「4P分析」を用いてアイデアを出しています。

pair
Oさん&Mさん



学生 ターゲットは、交野マラソンを知らない交野市近隣の住民です。ただ走るだけでなく、交野市民や他のランナーとの「交流の場」として、交野マラソンに参加してもらえるような取り組みができないか考えています。例えばホノルルマラソンには独自のコミュニティサイトがあってネット上での交流がとても盛んなので、参考にできればと思います。

Comment



他のペアとはまた違った視点ですね。現在の参加者やターゲットが「交流」を重視しているのか、まず確認した方がいいかもしれない。その上で、交野マラソンを盛り上げる事前プロモーションとして、ネット上でのコミュニティ作りは面白いと思います。

pair
Kさん&Fさん



学生 ターゲットは、普段運動をしていない20代の社会人。「交野マラソン」の飲食ブースを充実させることで、飲み会に参加する感覚で楽しめるマラソン大会を目指します。初心者向けのマラソンコース(3km)の定員数を増やして、友人と話しながらか楽しく走ることをイメージしています。参加費は現状から大きく変えずに、3000円~4000円でできたらいいなと思います。

Comment

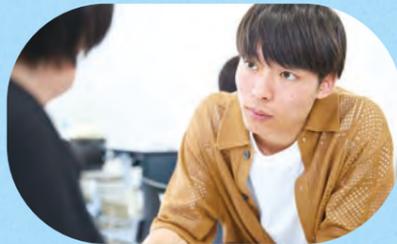


同窓会みたいな視点は面白いね。過去に万博記念公園で「たこ焼きマラソン」というマラソン大会があったので、調べてみると参考になるかもしれません。参加費はあまり変えたくないとのことだけど赤字になってしまっただけは元も子も無いので、試算が必要ですね。

pair
Fさん&Yさん



学生 ターゲットは、本マラソンの過去の参加者です。最近参加をやめてしまった40~50代に向けて「復帰割」を適用できたらと思います。新規参加者よりも参加費を1000円ほど安くすることで、「もう一度走ろうかな」と思ってもらえるのが狙い。参加賞のTシャツに、参加回数がかかれていたり、複数回参加者にとって特別な副賞も用意したいです。



Comment



いいアイデアですね。副賞はなにか交野市らしいものだと、市のPRにもなっていくかもしれません。ターゲットとなる「過去に参加したけど今は何らかの理由で参加していない」という人が実際にどれくらい存在して、どのようなことを望んでいるのか深掘りできたら、提案できる内容だと思います。

pair
Iさん&Nさん



学生 現在の参加者の満足度をさらに高めることが結果的に集客につながると思う、そこを課題にアイデアを考えました。現状、用意されているコースは10kmが最長ですが、「チャレンジ枠」として新たに15~20km程度のコースを用意することを提案します。コースを延伸することで、通れる観光スポットも、沿道の応援も増えるし、挑戦したいランナーのモチベーションアップにもつながると考えます。またランナー向けアプリの活用も提案したいです。

Comment



現状のコースは交野市の北側がメインなので、南側にもコースを広げるといい提案は良いですね。今度、合同勉強会の際にマラソン運営をしている会社の方をゲストに呼ぼうと考えていたので、コース設計についてお話を聞いてみるといいかもしれません。

pair
Tさん&Kさん



学生 ターゲットは、交野市近隣の住民です。枚方市や寝屋川市といった人口の多い市が隣にあるので、そちらへ向けて重点的にアピールできたらと思います。アンケートから、交野マラソンには「初心者にやさしい」という魅力があることが分かりました。参加ハードルを下げる施策や副賞の充実を図ることで、「初心者の完走を応援するマラソン大会」として認知してもらえればと考えています。

Comment



先ほどのペアとは逆に、短いコースが揃っていることを強みとして捉え、初心者向けに広く訴求していくというアイデアですね。近隣の市民をターゲットにするのも良いと思います。枚方、寝屋川と連携して「三大大会」みたいな企画にできたら面白いかもしれませんね。

市民マラソンの参加者を増やすには？

Katano Marathon

Professor

田島 良輝 教授より

秋学期には、各々企画をまとめて、交野市教育委員会社会教育課へ実際に提案する予定です。学生たちのアイデアが、実際に採用されるかもしれません。学生は、学外での活動を通して思いがけない力を発揮してくれます。今後もそんな成長の場をつくり、充実させていきたいです。

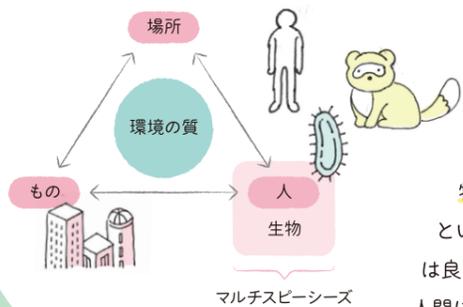
「へえ」と言いたくなるトリアから最新研究まで、教授の専門分野について聞いてみました！今回は、国際共創学部熊澤教授による「環境デザイン」についてのお話です。

良い環境ってなんだろう？



国際共創学部
くまざわ てるかず
熊澤輝一教授

専門は環境デザイン。2024年4月より、本学国際共創学部に着任。担当科目は「環境デザイン論」「環境と社会」「Regional Environment and Sustainability」など。大阪大学や立命館大学での勤務を経て、2011年から国立研究所である総合地球環境学研究所に所属。



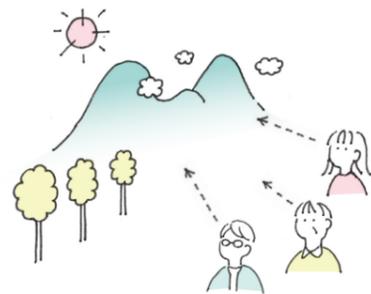
一般的に「環境デザイン」というと、ランドスケープ(景観)や建築などの分野で使われることの多い用語かと思えます。私はそういった分野も含みつつ、もっと広く「場所・もの・人(生物)」の間に立ち現れる「環境の“質”を設計していく」という意味で「環境デザイン」という言葉を捉えています。この“質”というのは多面的なものなので、ある人にとっては良い環境であっても、別の人にとってはそうでなかったりします。さらに視野を広げると、人間にとって都合の良い環境は、他の生物にとってそうでないことがありますよね。そのため「場所・もの・人(生物)」の3点目の「人(生物)」は、人間だけでなくさまざまな生物、つまり動物や植物、微生物まで含めた多種多様な生物の関係を踏まえた「すべての生物」として考えています。すべての生物、そしてその生物同士の関係性やそれらとの共生を考える「マルチスピーシーズ」という概念は、近年、環境デザインにおいて重要になってきています。

私自身はこれまで、里山でのフィールドワークや調査と、コンピュータを用いた情報処理の技術に携わってきました。研究者としては、ちょっと変わった経歴だと思えます。だからこそ、“現場”と“仮想空間”、両方での経験や知識を活かして「環境の質」について考えたり、領域を横断して様々な人と知識を共有しながら質の高い環境を作っていくことを目指しています。

「環境デザイン」とは、

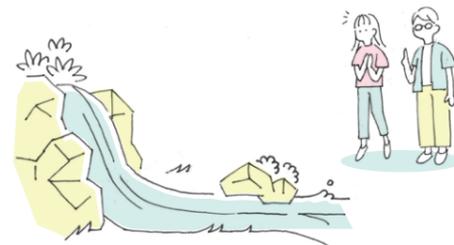
場所・もの・人(生物)の間に

立ち現れる“質”を設計していくこと



キーワードを体系化する

情報技術「オントロジー」



「創発」が欠かせない
地球規模の課題解決には

環境の“質”というのは多面的なものだとお話ししましたが、これは一つの場所やものに対して、様々な見方があるということがポイントです。例えばある山に対して、散歩するのが好きで景色を楽しみたいと考える人もいれば、山の生物や生態系に興味があって調査したい研究者もいます。ビジネス的な観点でその土地の活用方法を考える人もいるでしょうし、子どもだったら山を遊び場として捉えることでしょうか。そうすると、たった一つの物差しでその山の価値を測ることはできません。様々な見方や価値観を共存させながら山を守ったり、合意形成して環境を整えたりすることが大切だと考えています。そんな風に、お互いの環境への視点(ものを見かた)を可視化するためのツールとして、「地球環境学ビジュアルキーワードマップ」というウェブサイト(以下、VKM)を制作しました。こちらは以前所属していた総合地球環境学研究所(以下、地球研)での取り組みとなります。地球研には、文理融合の学術基盤をもとにした様々な研究成果があるのですが、一般の人や初学者には難しい内容や概念を含んでいることがあります。研究対象も広範囲におよびます。VKMは、それらの研究成果を親しみやすいイラストとキーワードによるアイコンで表現。サイト訪問者が気になるアイコン(例えば「温室効果ガス」)を選択してクリックすると、それに関連する他のアイコン(「洪水」「土地」「地域社会」など30以上)がマップのように表示されます。アイコンを保存する機能もあるので、自分の問題意識がどこにあるのか直感的に理解できたり、誰かとそれについて話し合ったりすることができます。VKMが、地球環境問題という多様で複雑な課題に対して向き合う手がかりになればと考えています。

「地球環境学ビジュアル
キーワードマップ」
環境への視点を可視化する



地球環境学
ビジュアルキーワードマップ
(<https://gesvkm.chikyu.ac.jp>)

VKMの仕組みを裏側で支えているのは「オントロジー工学」という知識情報処理の技術です。オントロジーとは、私たち人間にとっての「知識」を、コンピュータが分かるような形式で意味や関係性を定義したものです。例えば私たち人間は「りんご」と「赤い」という単語を見るときりんごの属性が赤色であることが容易に想像できますが、コンピュータの場合、事前にその二つの単語の関係性が記述されていなければ、「りんご」と「赤い」を紐づけて理解することができません。地球研の研究、ひいては「地球環境学」「持続可能性学」は、自然科学だけでなく、人文学や社会学、経済学など幅広い学問領域の知を統合したものですので、言葉同士の関係性を体系化するオントロジー工学を用いることで、共通する言葉を介して分野を横断できると考えました。

今後の活動としては、「湧き水のアーカイブ化」に取り組む予定です。沖縄には1200以上の湧き水があるそうなのですが、「湧き水fun倶楽部」という市民団体が地元の湧き水への訪問と勉強を重ねており、その資料が膨大にあるというのです。湧き水も、地域の文化として、信仰の対象として、災害時の生活用水としてなど、多様な見方ができる大変興味深い存在です。アーカイブ化を情報技術の面からお手伝いを通して、水場からその地域の在り方を考えていければと思っています。

ところで本冊子のタイトルは「創発」ですが、環境デザインや、地球環境学、持続可能性学自体が、とても創発的なものだと感じています。様々な分野、様々な立場の人が一緒に課題に取り組む、そのプロセスに創発は欠かせません。そして課題に取り組む際は、人間だけでなく他の生物や、自然、人工物も含めたあらゆるものが、環境を作るアクターであることを忘れないようにしたいですね。



世の中で起こる事象や物事には、様々な側面があり、捉え方は多様です。「KEYWORD TALK」は、ひとつのキーワードを本学5学部それぞれの視点から読み解く企画です。今回は『大阪』というキーワードから各学問の世界へあなたを導きます。



大阪の未来を創るのはあなたかもしれない!

経済学部 桑原 武志 教授

GDPという言葉は聞いたことがあると思いますが、その「市」版である「市内総生産」という指標をご存知でしょうか。大阪府は日本の政令指定都市の中で最も高い19兆5162億円(2020年度)の市内総生産を誇り、これはギリシャやイラクなど一国のGDPに匹敵する規模です。しかし、大都市である大阪市は1930年代後半から経済衰退が指摘されていました。今後大阪はどのような都市を目指すべきでしょうか? かつて大阪は「天下の台所」として全国の流通の中心(商業都市)でした。そして1920~30年代には工業都市として躍進。「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほど経済が発展し大都市として成長しました。その後大阪経済は、日中戦争、第二次世界大戦からの復興を果たすものの、高度成長期を経て、東京一極集中によって相対的に大阪の地位は低下。そこから飛躍的な成長がないまま、現在に至っています。私の授業「都市経済論」では、このような大阪の経済史と、現在の都市データ(人口構造、産業構造、階層・階級構造)を掛け合わせ、大阪の経済を多角的に分析します。唯一無二のユニークな都市・大阪で、まちの未来を考えてみませんか。

関連ワード #経済政策 #都市政治経済学 #地域経済 #都市経済 #地域政策コース

Faculty of Economics

KEYWORD TALK

5つの視点から

大阪をひも解くと...



スポーツでひと・まちを元気に! 大阪をフィールドにしたプロジェクトを実践中。

人間科学部 若吉 浩二 教授

「スポーツが好き」「運動部での経験を活かしたい」と考える人には、大阪をフィールドとした本学部での学びがピッタリかもしれません。スポーツは、自分がプレイヤーとして楽しむだけでなく、「地域(ひと・まち)を元気にする力」があるからです。例えば私のゼミでは、2019年度から継続的に大阪府能勢町との連携によって、児童の体力向上を目指すプロジェクトを実践しています。能勢町の小学校で、疾走能力改善のための体操を実施。その結果、4年後には50m走のタイムが大幅アップしほぼ平均値となりました。

また全国的に見ると、大阪はたくさんのプロスポーツチームがあったり、スポーツ施設が充実していたりと、スポーツが身近な地域です。だからこそ、スポーツで地域を元気にしたいと考える人にはうってつけの研究・実践フィールドと言えるでしょう。

関連ワード #スポーツ科学 #保健体育 #健康づくり #コーチング #地域連携 #企業連携 #スポーツビジネス

Faculty of Human Sciences



大阪府で増えている、海外からの移住者。お互いを理解するために、何から始めよう?

国際共創学部 大和 里美 教授

ある日、言葉や文化が異なる外国の方が隣に引っ越してきたら、あなたの日常にどのような変化が起こるでしょうか。実は大阪府には約17万人の外国人住民が住んでおり、全市民の約6.1%を占めています。これは政令指定都市の中で最多です。中国や韓国をはじめ、ベトナム、ネパール、インドなどから多くの方が大阪に移住しており、今後も増加が予想されています。では、大阪の「まちづくり」を考える際、外国にルーツを持つ方々と地元住民はどのように協力すべきでしょうか? 理想は相互理解と尊重による関係構築ですが、文化や言葉の違いがあると、そう簡単ではありません。そこで重要なのが、多文化理解と自己理解です。大阪の歴史や文化、そのルーツを知り、「大きな歴史の流れの中に現在がある」という視点を持ってみてください。それを軸として、相手との信頼関係構築を目指してみよう。「さまざまな人と一緒に、より良い社会を築いていきたい」と思えるあなたには、きっとグローバル人材としての素質があります。

関連ワード #地域振興 #地域価値創造 #まちづくり #移住 #グローバル #移民 #価値共創

Faculty of International Co-Creativity and Innovation



お笑い芸人の「一発芸」。丸パクリしたら訴えられる?

経営学部 眞島 宏明 教授

大阪といえば「お笑いのまち」というイメージがありますね。私の専門分野である知的財産法の観点から、お笑いについて考えてみましょう。たとえば、お笑い芸人が考案した「一発芸」に著作権はあるのでしょうか? 一般的に、短いフレーズや単語では「著作権が低い」とされますが、そのフレーズに独特のポーズや表情が加わると「著作物」として認められる可能性があります。従って、芸人Aさんの一発芸を、芸人Bさんがそのまま真似した場合、著作権侵害にあたる可能性があります。しかし、実際のお笑いの世界では、真似されることが逆にオウシイとされることも多く、訴訟になることは稀でしょう。

このように、身近なところに知的財産があり、それにまつわる法制度があることを感じてもらえたなら幸いです。法律は、ビジネス社会と切っても切れない関係ですので、これから社会に出る方も、今すでに社会で活躍されている方も、さまざまなビジネス法に注目してほしいですね。

関連ワード #知的財産法 #著作権 #特許 #商標 #意匠 #ビジネス法 #マーケティング #経営

Faculty of Business Administration



大阪は今も昔も広告の都である。

情報社会学部 弦間 一雄 教授

世界的な観光名所として有名な広告が二つあるのをご存知ですか。一つはニューヨークのウォールストリートにある「Fearless Girl」という銅像で、金融業界における女性の地位向上を訴える広告です。もう一つは、大阪の道頓堀にある「グリコの看板」です。広告というと、動画サイトに現れるCMのようにスキップしたいものや、パナーのように邪魔なものだと思われがちです。しかし、グリコの看板やかに道楽、くだおれ人形、通天閣などの屋外広告は、大阪の魅力的な街並みを作り上げてい

ます。2023年の世界観光都市ランキングで大阪が16位にランクインしたのも、グリコの看板がSNSで話題となったおかげかもしれません。

道頓堀に初めてグリコの屋外広告が設置されたのは1935年のこと。大阪に広告の都としての原型が生まれた時期でもありました。近年では、京セラドームやヤンマースタジアム長居、エディオンアリーナなどの大阪を代表する施設名に大阪を基盤としている企業名を冠する「ネーミングライツ」も見られ、大阪らしい広告スタイルが盛んになっています。

関連ワード #情報デザイン領域 #デザイン思考 #アート思考 #広告コミュニケーション #クリエイティブ #センスメイキング

Faculty of Information Technology and Social Sciences

スペシャルサイト準備中!

「KEYWORD TALK」は現在準備中のスペシャルサイトのコンテンツを一部抜粋したものです。スペシャルサイトでは、「大阪」以外のキーワードや、他の先生の記事も掲載予定。公開をどうぞお楽しみに!

卒業後もつながる大経大 佐藤武司氏との不思議なご縁が、2人の卒業生の人生を変えた



画像左から日高氏、佐藤氏、元濱氏



日高氏が取得した学位記(左)と元濱氏が取得した技術士登録証(右)

本学の卒業生が難関の資格を取得されたとの情報を得て、大樟会元会長・本学元理事長の佐藤武司氏(30回)が取締役CEOを務めておられる「日本ジッコウ株式会社」本社を訪問しました。

佐藤武司氏と、佐藤氏が創業された日本ジッコウグループの会社にお勤めの日高幸治氏(57回)、元濱弘敏氏(61回)にお話を伺いました。

— まずは、お二人と佐藤さんとの出会いについてお聞かせください。

日高氏 中学、高校とバレーボール部でしたが、大学では他の競技をやろうと考えていました。入学式の日、偶然出会った高校の一年先輩に誘われて空手道部を見学し入部しました。空手道はこの日、初めて経験しました。クラブ活動と真剣に向き合うことで、勉学とメリハリのある充実した学生生活を送れました。卒業時、今度は空手道部OB会副会長だった佐藤さんに誘っていただき入社しました。

元濱氏 中学は陸上部、高校はサッカー部でした。大学では映画研究部に所属し、芸術会本部の副本部長を務めました。就職時には、有名でなくとも業界内では知る人ぞ知るような企業を目指し、兵庫県内の会社に就職しました。その後、転職した会社の東京支店で「日本ジッコウ」との共同研究の担当者に選ばれました。会議には佐藤さんも参加しておられ、お話すうちに大経大の先輩であることが判明しました。そのご縁で、正に業界内ではキラリと光るこの会社に入社することになりました。年齢は34才でした。

— 佐藤さんからお二人のことをお聞かせください。

佐藤氏 日高君の入社時に、私の判断で営業ではなく研究部門に配属しました。研究所には、元東京大学助教授の堀口和雄さんがおられ、彼を弟子として育てていただきました。大経大の出身なので、当然研究や実験の経験は無かったのに、まるでスポンジが水を吸い込むように知識を吸収していきました。何年前か、新聞で国立大分大学が、我が社に関係の深い研究をされていることを知りました。彼が中心となり大分大学との共同研究を始め、大きな成果を得ました。今回彼は、大分大学の工学博士号を取得しました。

元濱君と東京で出会った時には、前出の堀口さんもおられました。日高君の話もした覚えがあります。会議の後に飲食を共にすることも何度かありました。そんな時、大きな組織の一歯車として人生を終わらせるのは嫌だとの彼の思いを強く感じました。入社後も努力してスキルアップすることを奨励し、バックアップを惜しまない我が社の経営方針を話すうちに、意気投合してしまいました。彼は色々な資格に挑戦し続け、ついには超難関の技術士の資格を獲得しました。

— お二人から、在学生の皆さんにアドバイスをお願いします。

日高氏 何事にも真剣に打ち込み、精一杯努力してください。一度決めたら諦めずに挑戦を続けてください。努力、挑戦は必ず結果に繋がります、その一つひとつが積み重なって行きます。

元濱氏 私は「常に努力することを止めない」をモットーとしています。思い起こせば、大学時代ほど多くのことを学んだ時期は他にはありませんでした。社会に出てからも学びは続きますが、土台の部分の多くは大学時代の学びだったように感じます。努力を惜しまず、貪欲に多くのことを学んでください。

今回の取材では「努力」という言葉がキーワードとして何度も出てきました。文系のお二人が、理系の大きな称号を手に入れるためには大変な努力が必要だったと思います。

しかし、一番重要なキーワードは「バックアップ」だと感じました。お二人が不思議なご縁で佐藤さんと出会い、その会社が佐藤さんの思いから「努力」する社員を全面的に「バックアップ」する社風だったことは、とても幸運でした。

あとがき

佐藤さん自身も大経大出身の文系でありながら、特殊な塗料メーカーを立ち上げ成功されました。「日高君が繋いでくれた大分大学との太い絆は、今後も我が社の発展に大きく寄与すること間違いなしです。元濱君の資格は、本来なら外部に委託するか保有者を雇用する必要があります。特に公共事業では必須の資格で、保有することで絶大な信用を得られます」と佐藤さん。「現在『日本ジッコウグループ』には大経大の卒業生が15名在籍しており、来期も新しい仲間が増える予定です。我が社に興味のある方は、ぜひ連絡ください。お待ちしております」と呼び掛けもいただきました。

Profile

日高 幸治氏

1967年鹿児島県生まれ、兵庫県加古川市育ち
兵庫県立東播磨高等学校卒業、1991年本学経済学部卒業(松尾ゼミ出身)
テクノスジャパン株式会社常務取締役工場長
大分大学博士(工学)、1級土木施工管理技士

元濱 弘敏氏

1971年生まれ大阪市出身
大阪府立桜塚高等学校卒業、1995年本学経済学部卒業(高城ゼミ出身)
エースコンサルタント株式会社取締役統括本部長
技術士(上下水道部門)、コンクリート診断士



Overview

日本ジッコウ株式会社 (<https://www.jikkou.co.jp/>)

昭和50年創業、売上高52.8億円、従業員数190名、全国に9支店と技術研究所。関連企業として、テクノスジャパン(株)、エースコンサルタント(株)。社内には博士3名と技術士3名が在籍。本年「味祭王国」を開店し、飲食業に進出されました。

(聞き手…広報部部長・田中伸治)

「澱江60号」の編集は、
順調に進んでおります。
その中の一部をお知らせします。

▶大樟会の様々な取り組み ▶若くして起業した卒業生 ▶驚きの世界で花開いた卒業生 ▶大きな企業の舵取りを担う卒業生 ▶在学生の様々な活躍等々、多彩な内容でお届けいたしますので、ご期待ください。

SOUHATSU news & topics

トピックス 「日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング2024-2025」で近畿私大1位に

日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが実施した「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査」において、本学は就職力ランキング・大学の取り組み別ランキングの多数の項目で上位にランクインしました。

本調査は全上場企業と一部有力未上場企業の人事担当者に、正社員として採用・入社した学生から得た大学のイメージに関してアンケートを行ったものです。



▲出典元：日経キャリアマガジン特別編集「価値ある大学 就職力ランキング2024-2025」(日経HR編集部)

就職力ランキング

総合
ランキング **近畿私大1位**
(全国19位)

本学は近畿における総合ランキングにおいて、私立大学として1位、総合では5位となりました。

大学の取り組み別ランキング

就職支援に
熱心に取り組む

近畿全体1位
(全国4位)

地域の活性化に貢献

全国私大1位
(全国3位)

側面別ランキング

学生に対するイメージとして「熱意がある」「コミュニケーション能力が高い」「個性がある」といった項目を挙げ、3つの側面に分類しランキング化したもの。「行動力」においては**私立大学として全国1位**という結果になりました。

行動力 **全国私大1位** (全国4位) 対人力 **全国私大4位** (全国7位) 獨創性 **全国私大3位** (全国10位)

トピックス

新CM「生き続ける学びがここに『就職力』篇」 TVCM・WebCMを実施

新CMでは、就職力ランキングで上位にランクインした3つの項目をクローズアップし、ゼミが育む「獨創性」、課外活動が培う「行動力」、実践教育が磨く「対人力」といった、大阪経済大学の「生き続ける学び」を紹介しています。

放映時期

2024年
7月15日(月・祝)~8月31日(土)、10月14日(月・祝)~11月17日(日)

放映地域

TVCM 関西・岡山・香川・広島・愛媛・鳥取・島根・高知・徳島
WebCM X、Instagram、TikTok



<https://www.osaka-ue.ac.jp/movie/>にて公開中



トピックス

NHKの番組に大阪経済大学が登場!

2024年7月8日(月)、NHK大阪放送局の番組「ぐるっと関西おひるまえ」のコーナー「学校へどーも!」で、大阪経済大学が紹介されました。

放送では、情報社会学部の浅田ゼミが取り組む「福学地域連携プロジェクト」、HUBカフェ、そして学生が学生を支援するピアサポート団体DOGsの活動が取り上げられました。



放送当日、学生たちはスタジオで技術打ち合わせやカメラリハーサルにも参加。番組制作の裏側を体験しました。

学内行事

本を媒介としたコミュニケーション装置「ほんのれん」全国の大学で初導入!

2024年3月27日(水)から図書館ラーニング・commonsに「本」と「対話」で創発を促すことを目的に「一畳ライブラリー」「ほんのれん」を導入しました。5月31日(金)には体験ワークショップを実施。学生と教職員が「ほんの自分?アバター時代の『たぐさんの私』」をテーマに対話しました。



クラブ活動



陸上競技部
第56回全日本大学駅伝に出場決定

6月に大阪市のマナーフィールド長居で行われた関西地区選考会で3位となり、全日本大学駅伝へ4大会連続26回目の出場を決めました。大会は、11月3日(日・祝)午前8時10分スタート。選手らは名古屋市熱田神宮から三重県の伊勢神宮までの8区間106.8kmに挑みます。

ハンドボール部

令和6年度全日本学生ハンドボール選手権大会に出場決定

8月に開催された令和6年度男子第63回女子第54回西日本学生ハンドボール選手権大会において予選を1位で通過し、本戦ではベスト8の成績を収めました。そして高松宮記念杯男子67回女子60回令和6年度全日本学生ハンドボール選手権大会に37年連続57回目の出場を決めました。大会は11月6日(水)から10日(月)にかけて広島県立総合体育館(広島市)等で行われます。

クラブ活動



サッカー部
第48回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場

5月から6月にかけて行われた第53回関西学生サッカー選手権大会において5位となり、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントへ4大会ぶり5回目の出場を決めました。

9月4日(水)に泉サッカー場(宮城県仙台市)で行われた初戦は、神奈川大学に延長戦の末1-2で敗れ、総理大臣杯での初勝利にあと一步届きませんでした。

クラブ活動



クラブ活動 弓道部(女子)

第72回全日本学生弓道選手権大会、第55回全日本学生弓道遠的選手権大会出場

7月に行われた全国大学弓道選抜大会で第3位入賞を果たし、全日本学生弓道選手権大会へ3年連続の出場を決めました。そして8月24日(土)に行われた大会において、団体戦はベスト16、個人戦では溝口 千織さん(経済学部2年)が本学としては初の優勝を果たしました。また8月25日(日)に行われた第55回全日本学生弓道遠的選手権大会では、安部 日捺さん(経営学部1年)が見事、第4位に入賞しました。



溝口さん(左)と安部さん(右)



連携協定

高知県黒潮町と包括連携協定締結



大阪経済大学および高知県幡多郡黒潮町による包括連携協定の締結式を、2024年5月2日(木)に砂浜美術館(高知県幡多郡黒潮町入野)のTシャツアート展すなはま教室で行いました。本協定は、本学と黒潮町が様々な分野に関する包括的かつ継続的な連携を推進することにより地域の課題解決及び活性化、人材育成を図るとともに、地域社会の発展と大学における教育・研究に寄与することを目的としています。

連携協定

兵庫県信用組合と連携協定締結



大阪経済大学と兵庫県信用組合との産学連携・協力に関する協定の締結式を大隅キャンパスで行いました。本協定は、主に兵庫県内の企業を対象として、地域課題の解決に関する研究成果等を社会に還元すること及び地域の産学連携を推進し、地域経済の発展、産業振興、人材育成に寄与することを目的としています。

イベントのご案内



だいけいだいキッズスマイルフェスタ
～ぼうさいでつながる力、かがやく命～

「防災・教育・福祉」をテーマに楽しく学べる子ども向けの体験型イベントを実施いたします。お子さまと一緒に、本学で楽しく学べる体験型イベントにぜひお越しください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております!

日時 2024年11月24日(日) 11:00~16:00

参加費 無料 当日はスタンプラリーを実施します。スタンプを集めて素敵なプレゼントをゲットしよう!

内容 ドローン操縦、巨大迷路、防災グッズ製作、メタバース、プログラミング など

自衛隊車両、消防車両も来るよ!

場所 大阪経済大学 大隅キャンパス

対象 小学生以下



※プログラム内容は変更になる場合があります。詳細はこちらのQRコードから最新情報をご確認ください。



【イベントに関するお問い合わせ先】
大阪経済大学 総務部 総務課
TEL:06-6328-2431(代表)
Email:somuka@osaka-ue.ac.jp

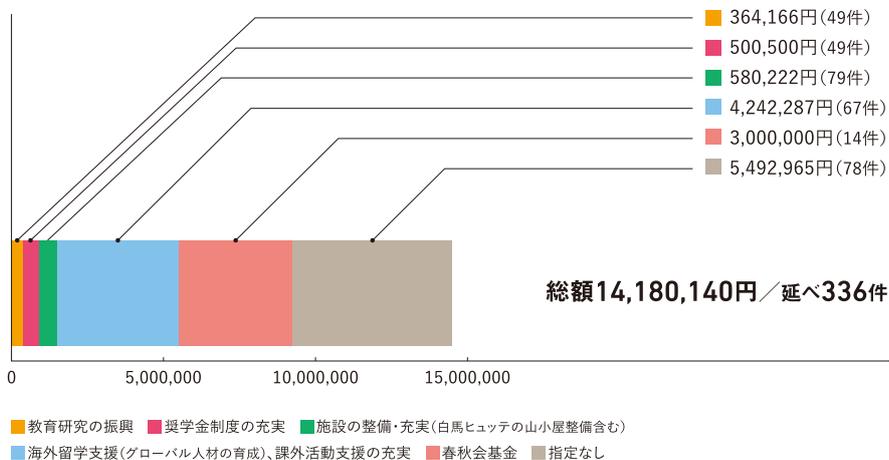
大阪経済大学教育振興募金 2023年度のご報告

～皆様のご支援に対し、心より感謝申し上げます～

本学の教育振興募金事業については、2020年度より「①教育研究の振興」「②奨学金制度の充実」「③施設の整備・充実」「④海外留学支援(グローバル人材の育成)、課外活動支援の充実」「⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学生支援」の5つの募金用途を軸としつつ、皆様のご支援により継続して事業を展開してまいりました。また、本学同窓生で企業経営に関わる方で組織されている“大樟春秋会(おおくすしゅんじゅうかい)”の基金としてのご寄付も承っており、主に寄附講座やアントレプレナーシップ(ENT)塾の運営原資として活用させていただいております。

2023年度は延べ336件・総額14,180,140円のご寄付を頂戴しました。多くの皆様にご支援いただきましたこと、教職員一同心より感謝申し上げます。頂戴したご寄付はご指定いただいた募金用途にて、それぞれ有益に活用させていただきました。

2023年度のご寄付について



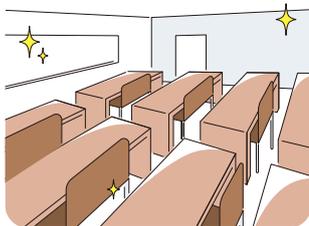
募金を使用した主な事例

●教室改修(B/C/G館)

国際共創学部設置に伴う小教室(ゼミ室)不足解消のため、改修工事を実施。G館およびB館の大教室を分割し、C館6階の地域活性化支援センターと経営・ビジネス法情報センターを教室に改修。

●J館2・3階改修工事

国際共創学部設置に伴い、新学部長室および会議室を新設。また、理事室の改修も併せて実施。



ご寄付いただける場合は、
同封の振込取扱票を



ご利用いただきますようお願いいたします。

これからも大阪経済大学にご理解とご支援を賜りますよう、
どうぞよろしくお願いいたします。

※ 件数・金額の算出基準については、本学決算資料に準じます。 ※ そのほか、現物寄付も多数頂戴しております。